

ふるさと通信
TOMISATO

とんぐり

No.119

発行：富里地域ふるさと協議会・富里地区社協部会
http://www.fk-tomisato.net/

編集・制作：広報部 koho@fk-tomisato.net
お問合せ：TEL 04-7173-9531 (富里近隣センター)

「富里地域ふるさと協議会」は、JR 柏駅から南
柏駅に位置する 7 つの町会で構成されています。
近隣センターを拠点に、町会の垣根を越えて、福
祉活動や地域住民の交流を図り、住みよい生活環
境づくりをめざして活動しています。



36 年の歩みを振り返る

ふるさと協議会の歴史

富里地域ふるさと協議会は、今年で創立 36 年
目。多くの先人が紡いできた歴史を広報誌「とん
ぐり」のバックナンバーなどの資料をもとに振り
返ってみます。

◇ 昭和 56 年に発足

協議会は「富里地域ふるさとづく
り協議会」という名称で、昭和
56 年 8 月に発足しました。栄町、
通一丁目、双葉町（現泉町）、緑ヶ
丘、富里、豊町（現豊町東）、豊町
西）の 6 町会で構成。活動の拠点
となるのが近隣センターですが、
初代の役員たちは「近隣センター
は私たちの手で作ろう」と柏市内
外の先進センターを訪ねて研究をし、各町会と連携
をとりながら設計などの検討を重ねて、柏市内で 10
番目となる富里近隣センターを完成させました。地
域手づくりのセンターでした。昭和 58 年に完成し、
当時の鈴木真市長を迎えて記念式典を行ったこ
とが、「とんぐり」創刊号で特集されています。長
尾一・初代会長が「地域を見直し、ふれあいと話し
合いを通じて誇れる郷土にしよう」と力強く抱負を
語っています。

◇ 当初から活発なイベント

発足当時から専門部が企画した手話講座、高血圧
予防料理の講習会、食品添加物の勉強会、和紙ちぎ
り絵教室などの事業を活発に実施していました。ビ
ッグイベントの体育祭、文化祭も早々と始まってい
ます。町会対抗で当時強かったのは通一丁目、栄町
町会でした。通一丁目町会は 8 回大会（平成元年）
から 12 回大会（同 5 年）まで、なんと 5 連覇。栄
町町会も第 2 回（昭和 59 年）に優勝、15、16 回（平
成 8、9 年）に 2 連覇しています。

◇ 豊町町会を東西に分割

世帯数が 2,000 を越す
大きな町となった豊町町
会は、平成 10 年、常磐線
を境に豊町東町会、豊町西
町会に分割されました。両
町会の活動拠点となる豊
町ふるさと会館も、これを
機会に大幅に改装され、町
会活動のほか地域の人の
ための教室やサークルの会
場として広く利用されて
います。双葉町町会は、
昭和 42 年の住居表示の実
施で町名が泉町と変わっ



来賓に挨拶する今井豊町東町会



乾杯の音頭をとる白田豊町西町会

たあと、双葉町町会のままでしたが、町名と合わせ
た方が分かり易いと平成 9 年 4 月から泉町町会に変
わりました。

◇ 協議会と地区社協を一本化

「ふるさとづくり協議会」は、平成 15 年に
「ふるさと協議会」と名称が変わりました。
平成 19 年、富里地域ふるさと協議会
と富里地区社会福祉協議会が一本化
されました。「柏市民憲章」に
則った明るく住み良い街づく
り、福祉の充実などを、協
議会として推し進めてゆ
こうというための
一本化です。

◇ ふるさと協議会の主な出来事

| | | |
|----|---------------|-------------------------------------|
| 昭和 | 56 年 8 月 28 日 | 富里地域ふるさとづくり協議会発足 |
| | 58 年 4 月 12 日 | 富里近隣センター落成 |
| | 58 年 4 月 12 日 | 「とんぐり」創刊号発行 |
| | 58 年 10 月 | 第 1 回体育祭開催 |
| | 59 年 10 月 | 第 1 回文化祭開催 |
| 平成 | 9 年 4 月 1 日 | 双葉町町会を泉町町会に変更 |
| | 10 年 4 月 1 日 | 豊町町会を分割 |
| | 10 年 10 月 3 日 | 豊町東、豊町西町会誕生 |
| | 14 年 4 月 1 日 | 豊町ふるさと会館改修工事完成 |
| | 15 年 4 月 1 日 | 専門部にご防犯部を新設 |
| | 17 年 10 月 1 日 | 富里地域ふるさと協議会と改称 |
| | 17 年 10 月 1 日 | 柏市形町交通安全組合富里支部設立 |
| | 19 年 4 月 1 日 | 協議会と地区社協を一本化 |
| | 24 年 4 月 16 日 | 設立 30 周年記念式典を挙げる |
| | 26 年 3 月 31 日 | 防犯交通安全組合富里支部を解散 柏市形町協議会富里支部として発足 |

◇ 創立 30 周年

平成 24 年に協議会は創立 30 周年を迎えました。
同年 6 月に行われた記念式典で来賓の秋山柏市長は
「30 年の長きにわたり献身されたさまざまな方に
感謝したい。人口が急増しているこの地域では、ふ
るさと意識を共有してゆぐためにも皆さんの存在
が大切。今後も積極的な活動をお願いしたい」と期
待を込めた祝辞を寄せています。

36 年の歩みを記録し続けてきた「とんぐり」は、
今号で 119 号。創刊の頃、この地域にはまだくぬぎ
やならの木があつて、子供たちは甲虫捕りに夢
中…… そうついた風景を思い描いてタイトルに
したのでしようか。多くの先輩たちの思いを大切に
し、今後 40 年、50 年と続く協議会の歩みを「とん
ぐり」は記録に刻み続けてゆきます。

「リサイクルバザー」が盛況

ふるさとふれあいまつり



ふるさとふれあいまつりが、3月11日、近隣センター全館で開催されました。メーキングのサイクルバザーでは、地域の人が提供した衣類、生活雑貨、食器など多彩な商品がずらり。格安とあって開場前から行列ができるほどで、売れ行きも好調でした。売上 21 万 4200 円は福祉に役立てられます。和室の演芸大会は、各町会の老人クラブを中心に、物まね、踊り、カラオケなどの芸が披露され、終日にぎやかでした。庭は子供の広場として開放され、大勢の子供たちがこ



ころ遊びました。クアウなどの興に、駐車が担当する模擬店が並び、豚汁、あんこも飛ばようになり、協議会が中心になり、協会の役員、委員、市民委員などに昨年 12 月に改選された民生委員さんが活躍。新任、留任、退任の委員さんが商品陳列、値付け、裏方さんとして汗を流していました。



ま回し、ストなどの遊びに興じていました。駐車が担当する模擬店が並び、豚汁、あんこも飛ばようになり、協議会が中心になり、協会の役員、委員、市民委員などに昨年 12 月に改選された民生委員さんが活躍。新任、留任、退任の委員さんが商品陳列、値付け、裏方さんとして汗を流していました。

「薬と上手に付き合おう」

柏厚生総合病院 松木先生



地区社協部会企画の地区勉強会が 12 月 1 日、近隣センターで開催され、柏厚生病院薬剤科の松木祥彦先生が薬をテーマに講演、56 人が受講しました。

薬の効果が高くなっていますが、正しく服用しないと効果が得られなかったり、病状が悪化する原因にもなります。薬の飲み残しの代価は年間 500 億円。とくに高齢者に多いといわれます。うっかり飲み忘れたり、種類が多

すぎて飲み間違えたり、生活のリズムに合わないなどのケースが。対策として、置き場所を決めておく、100 ケンショップでも買える薬ケースの活用、薬カレNDER でチェックするなど有効です。薬は正しく飲むこと。水なしで飲んだり、水の量が少ないと、食道に炎症を起こしたり、吸収が低下したりします。「コップ 1 杯の水またはぬるま湯」で飲んで下さい。「薬手帳」を持っていますか。医師や薬剤師が情報を共有でき、いま使っている薬やアレルギーなどが確認できます。事故や災害時も薬手帳を持っていけば的確な処置をしてもらえます。ほかにも薬に関するさまざまなお話が聞かれました。



松木先生は「病気になっても、できるだけ健康な生活を送るためにも薬のことを知って、上手に付き合ってください」とアドバイスしています。

子育てママの勉強会

◇ 親子体操でリフレッシュ

子育てに励んでいる若いママさんを対象とした「親子体操」が、3月1日、近隣センターで開催され、赤ちゃんと連れママ 26 人が参加しました。健康運動指導士、石原由紀子さんがユーモアを混じえたお話でわかりやすく指導。ボールやゴムひも、座布団などを使った運動で楽しく汗を流しました。「日頃の運動不足の解消に役立ててほしい」とママさんたちも満足そうでした。



児童保健福祉部

◇ 赤ちゃんのための防災準備

赤ちゃんを持つお母さんの防災教室が 12 月 2 日、近隣センターで開催され、お母さんから 25 人が参加しました。講師の酒井敏江さんは、新田原地区の健康推進員。阪神大震災の体験、東日本大震災後、知人を訪ねたさいの、皆さんの困った話などの体験談を集め、推進員として、お母さんのためにアドバイスをしました。お話のひとつは防災のための準備で避難所などで 3 日間生活するため、携帯用のコンパクトなお尻ふき、タオルは多めに用意、粉ミルクはかさばらないキューブやスティックタイプを、哺乳びんは消毒のいらない使い捨てを…などを。また避難所で赤ちゃんやんと生活するためのさまざまなアイデアを紹介してくれました。実例に基づいたお母さんに、参加したお母さんにも「とても参考になりました」と話していただきました。



広い町会、4 回に分けて

豊町東町会の防犯診断



約 2000 世帯を越す町会なので、12 月 17 日、1 月 14 日の 2 日、各午前、午後と 4 つの区ごとに実施しました。今回も柏市防災安全課、柏警察署生活安全課の職員、署員が診断にあたり、4 区合わせて約 90 人が自分の住む町の防災度を確かめました。各區ごとに町の表情は異なりますが、やはり全体を通して自転車の無施設が目立ちました。自転車盗難のほとんどは自宅の敷地やマンションの自転車置き場からだそうです。植栽が伸びすぎで防犯上不安という家庭は少なく、きちんと刈り込んで、しかもしっかりと侵入を防ぐという理想的なお宅も。空き地を利用しただけの駐車場は、照明もなく看板もないと車上狙いの標的になりやすい。自動車盗難ではなぜか「ブリス」が狙われるとか。門扉は留守のとき、閉めるのが鉄則。扉がないばあいは、ロープ1本や、ブランターを置くだけで侵入防止に効果があるといえます。4 区を通じて街並みはきれいで防犯度は高いとの評価でした。「ゴミを放置したり、落書きがあると防犯意識が低いと犯罪者に狙われます。町をきれいにし、知らない人には、” こんにちわわ」と声をかけることで、下見や犯行をあきとらめさせます。自転車や窓にはしつかりカギをかけて、さらに防犯度を高めて下さい」との講評がありました。



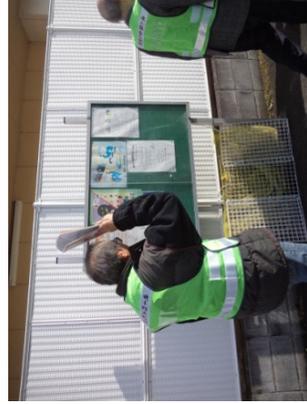
見や犯行をあきとらめさせます。自転車や窓にはしつかりカギをかけて、さらに防犯度を高めて下さい」との講評がありました。



富里町会では若葉町を

2 回目の防犯診断

2 月 23 日に実施。今回の対象地域は若葉町で、柏小やマミーマーケット、ヤオコーなど大手スーパーが



あつて、人通りも多いところ。柏市防災安全課の職員の診断やアドバイスを受けました。全体的に町並みはきれい、ゴミの放置や落書きもなく、防

犯意識の高さをうかがわせました。一方通行の細い道路を逆走する車があつて危険と指摘された箇所も。町会の掲示板がきれいに整えられ、その真下にあるゴミ集積所も清掃が行き届いており、「町の中がきれいで、整頓されていると、空き巣も敬遠するのです」との講評がありました。



警視庁へ行ってききました

防犯協会の研修

富里地区の 7 町会を構成する柏市防犯協会富里支部では、2 月 23 日、東京の警視庁を訪ねてきました。見学者用「警視庁教室」で首都の治安を



あずかる同庁の組織や活動のありさまを映像を見ながら説明を聞き、明治以降の歴史的な事件や災害と警視庁のかかわりを示す資料約 1000 点が展示されている「警察参考室」を見学。大久保利通暗殺につかわれた刀など貴重な資料の数々で歴史の一片にふれることができました。東京 23 区と島部の 110 番を受ける通信指令センターには、1 日に 4800 件の通報が入るとか。これは 18 秒に 1 件になるそうで、首都の事件や事故の多さを実感しました。



日本科学未来館を見学

社協部会研修

1 月 25 日、東京・お台場にある国立の日本科学未来館を訪ねました。館内に入るのと、吹き抜けの空間にある巨大な地球型のディスプレイプレーに目を奪われます。そこには展示するさまざまなコンテンツが次々に映し出されます。ここではロボ



ットやアンドロイドと私たち、インターネットの科学、宇宙の仕組み、地球環境と生命などさまざまな分野で、私たちがめざす暮らしを科学のアイデアがどう実現してゆくかを考えることができ。ネットトリノの観測、宇宙ステーションのコックピットなどの擬似体験で、難しい科学もちよびりわかつた気分。ロボット「ASIMO」の実演では、さまざまな動作や会話を楽しめました。平成 29 年は「AI (人工知能) 元年」ともいわれます。暮らしと科学を考えるよい機会になりました。

楽しい講習会

◇ 手づくりで見事に変身

12月7日、近隣センターで開催。講師は福田智子さん。100円ショップで購入した無地のバッグに「ト

ールペイント」という手法で模様を転写します。今回はハワイアンの花柄がテーマ。受講した32人は、思い思いの花柄を描き、アイロンの熱でバッグに写すと、南国ムードが漂う、ちよっとお洒落なバッグが完成。「これなら外出のお供になるわ」と皆さん満足そうでした。



生活環境部

詐欺防止電話機 購入に補助金

柏市では振り込み詐欺を防ぐため、防止対策仕様の電話機の購入や工事費用の一部を補助しています。

補助金支給の条件は

- ① 65歳以上の柏市居住の納税者
 - ② 自動応答録音装置などを備えた電話機の購入や工事
 - ③ 柏市の業者から購入すること。
- 補助金の金額は、購入や工事費用の2分の1で、最高1万円まで。補助対象の機器かどうかを確認するため、必ず事前に柏市防災安全課（電話 04-7167-1115）に相談して下さい。

(消費生活コーデイネーター 溝田節子)



独立行政法人

国民生活センター

◇ ほかほか中華まん

寒い季節のおやつに最適な中華まんを手づくりでと1月19日、近隣センターで開催されました。講師の日清製粉グループ派遣講師、高橋さんから3人が、ドライイースト発酵のコツ、生地練り方、具の包み方などを分かり易く指導。中華まんじゅーは、具を詰めてすぐ蒸したのものが最高の味とか。参加した29人は豚ひき肉、白菜、たけのこ、しいたけなどの具を包み込んだ、ほかほかの手づくり中華まんの味を楽しんでいました。



- +++++ 編集後記 +++++
- 「どんぐり」が新しくなります
- ・隔月に発行 ・お知らせを充実
- ・「町内だより」などコラム常設

編集長のコメント

協議会の広報紙「どんぐり」が次号(6月発行)から新しくなります。まず、これまでの年4回発行を、6回に増やし、向こう2ヶ月間の協議会のイベントや会合予定の全てを掲載し、申し込みもできるようにします。「町会だより」「専門部紹介」などのコラムを常設し、地域で活動する人やグループを毎号紹介します。また、広報部が取材する特集、企画記事は1面で扱います。イベントの情報源、地域を知る手がかりのひとつとして、ぜひ活用ください。

以下は、私ごとになりますが、長年つとめた広報部長を退任することになりました。私が地域活動にかかわったのは、70歳を過ぎてからでした。それまで地域には全く無頓着でしたが、取材をしたり、さまざまな方のお話を聞く機会も多く、自分の住む町やその周辺をしっかりと見直すことができ、思いもかけない知人、友人にもめぐり会え、思いもかけない充実した70代をすごすことができました。82歳になりましたが、健康度は60~70代と自負できるのも、地域の活動をさせていただいたおかげと感謝しています。半世紀を超える老人クラブ、地味な福祉活動を続ける民生委員など思い出に残る取材、記事はたくさんありますが、みなさんのための広報紙ができたかといえ、それははるかに及びません。これからも広報部全員で編集に取り組み込みます。

長い間ありがとうございました。

(平林英昭)

菊池さんが優勝

新春囲碁大会は1月22日、近隣センターで行われ、13人が競った結果、菊池庸さん(緑ヶ丘・3段)が優勝。準優勝は日高澄さん(緑が丘・6段)、3位



は広川欣也さん(豊東・4段)でした。この大会も今年で32回。参加者が減っており、今後は将棋、麻雀などの大会を行うてはどうかという声もあがっています。

給食ボランティア募集!

地域ボランティア部では、給食ボランティアを募集しています。毎月第3水曜日、一人暮らしの高齢者の食事会の昼食を作ってください。料理好時間は午前8時30分から午後2時まで。料理好きで、おしゃべりも楽しみたいという方3~4人の応援をお待ちします。第3水曜日に一度見学に来て下さい。

地域ボランティア部 下山部長
090-2486-6813